



基調講演でこれからのまちづくりについて話す北川正恭先生

**市民と「共創」のまちづくりを**

■自治基本条例施行10周年記念シンポジウム

8月27日、相良総合センターい〜らで「牧之原市自治基本条例施行10周年記念シンポジウム」が開催され、県内外から約300人が参加しました。同条例の施行当初から関わっていただいた北川正恭先生（早稲田大学名誉教授）の基調講演のほか、佐藤淳先生（青森大学社会学部教授）がコーディネーターを務め、北川先生、市民ファシリテーター、杉本市長によるパネルディスカッションを実施。司会は「地域リーダー育成プロジェクト」に参加した高校生らが務めました。

**子どもたちだけでまちをつくらう**

■ぼくらのまちのはら2022

相良総合センターい〜らで8月22日、「ぼくらのまちのはら2022」が開催されました。この催しは、お店を作る、商品をつくる、仕事を探す、働く、給料を払う、買い物をする、税金を払うなどの体験を全て子どもたちが考え、子どもたちだけの「まち」をつくるものです。当日は、約30人のこどもスタッフが約2ヶ月に渡り準備してきたまちに、市民の子どもが続々と訪れ、買い物をしたりアルバイトをして給料をもらったり納税したりと、ぼくまちを楽しみました。



お店で買い物を楽しむ子どもたち

**宝くじ助成でお祭り用品を整備**

■自治総合センター コミュニティ助成事業

青池町内会（細江区）では7月、宝くじの社会貢献広報事業として一般財団法人自治総合センターが実施する「コミュニティ助成事業」を活用し、祭典などで使用する提灯、大太鼓、発電機などを整備しました。これにより、長年地域で大切にしてきたお囃子などの伝統行事にさらに多くの住民が参加できるようになり、世代を超えた交流が行われることで地域のつながりが深まり、コミュニティ活動が活発になることが期待されます。



整備した提灯、大太鼓、発電機などの備品



杉本市長（左）に受賞を報告した山本代表（右）ら

**多年にわたり海岸の環境美化に貢献**

■海事関係功労者 国土交通大臣表彰 受賞報告

8月26日、株式会社東遠浄化槽管理センターの山本一也代表取締役らが杉本市長のもとを訪れ、「令和4年度海事関係功労者 国土交通大臣表彰」の受賞報告を行いました。同社は、「東遠ビーチクリーン」としてさがらサンビーチの清掃活動を12年間で延べ118回実施しており、今回、多年にわたり海岸の環境美化に貢献したとして表彰されました。山本代表は「これからも継続して活動していきたい」と今後の抱負を語りました。

広報担当がどこにでも取材に行きます。あなたの身近にあるホットで楽しい話題やイベントなどの情報をお待ちしています。

情報交流課 ☎0040 ✉seisaku@city.makinohara.shizuoka.jp

ズームイン！  
カシャ！！



ビーチサン飛ばしにチャレンジする参加者

**快晴の下、海と砂浜を満喫**

■砂ASOBeach in 牧之原

8月7日、地頭方海浜公園で「砂 ASO Beach in 牧之原」が開催されました。この催しは、「海に入らなくても砂浜で楽しめるイベント」として平成30年から開催され、今年度で5回目の開催となりました。当日は快晴に恵まれ、砂浜での「宝探し」や「ビーサン飛ばし」、「水上カルタ」のほか、海の中でも楽しめるイベントもたくさん用意され、市内外から訪れた家族連れなど237人が海を満喫しました。参加した親子は「今年も参加できてうれしい。いろいろな遊びにチャレンジできた。また来年も参加したい」と声を弾ませて話してくれました。

**ホストタウンのつながりをより強く**

■相良高校・下田中学校 ホストタウン交流

8月10日、相良高校サーフィンサークルと下田中学校サーフィン部の生徒が市内でサーフトレーニングや地域紹介などを通じた交流を行いました。本市と下田市は、2020東京五輪に出場したUSAサーフィンチームの事前合宿をホストタウン連携事業として受け入れました。そのレガシーとして、両校でサーフィン活動が活発化しています。当日は、ジョン・オオモリ氏（米国オリンピック・パラリンピック委員会 元日本代表駐在員）による講演会も行われました。



静波サーフスタジアムで交流する両校の生徒ら



飛行機の機内を模したスペースで英会話に挑戦する児童

**英語漬けの2日間**

■イングリッシュキャンプ2022

8月3・4日の2日間、市内の小学5・6年生約30人が、市史料館で開催された「イングリッシュキャンプ」に参加しました。この教室は、英語に親しむ活動を通して、もっと英語を学びたい・話したいという意欲を持つことを目的として毎年実施されているものです。児童は、外国語指導助手（ALT）らと一緒に海外旅行の疑似体験や買い物体験を行ったり、日本の文化を発表したりしました。2日間の体験を終えた児童には、修了証書が手渡されました。